

第5章 リーディングプロジェクト

行方市の環境将来像である「湖と緑とやすらぎを守り育てるまち なめがた」を実現するためには、市内に居住する人、市内で働く人、市内を訪れる人が、行方市の環境のみならず、地球環境のことを考えて行動していくことが必要です。

リーディングプロジェクトとは、本計画を進めていく中で、全体を先導していく施策、すなわち、最も優先的に行うことで全体の取組を促進する施策として位置づけ、推進していくものです。

リーディングプロジェクトでは、取組の効果を数値で確認・評価するために、環境指標を設定しました。環境指標は定期的に点検し、施策の取組内容の見直しなどに反映させていただきます。

令和3年度の間見直しにおいて、策定時に計画された「集まれ！なめりーミコット環境ネットワーク」プロジェクトについては、なめりーミコット環境ネットワークを設置していないため、プロジェクトの内容を見直し「環境を思いやる人づくり」プロジェクトとして今後計画目標年度までこのプロジェクトを推進していきます。

1 「環境を思いやる人づくり」プロジェクト

住みやすい地域づくりを目指すため、市、市民、事業者を取り込んだ協働による環境保全活動を展開し、環境意識の向上と環境活動の促進を図ります。

2 「世界に誇れる霞ヶ浦・北浦保全活動」プロジェクト

「天王崎観光交流センターコテラス」など市民が集う場所に、若い世代や流域市町村も取り込んだ活動を提供し、世界に誇れる霞ヶ浦・北浦の保全活動の促進を図ります。

3 「水を育む山・水を使う人・きれいな水循環」プロジェクト

水源となる里山の保全を行うとともに、生活排水対策の強化、環境に配慮した農畜水産業を推進し、きれいな水循環の促進を図ります。

4 「一人ひとりが実践！実感！地球温暖化対策」プロジェクト

地球温暖化対策(緩和策)や気候変動適応策に向けた取組の効果を一人ひとりが実感できるよう、各種支援体制を強化し、今できることを着実に実践する地球温暖化対策(緩和策)や気候変動適応策を進めます。

●リーディングプロジェクトイメージ図



- 「環境を思いやる人づくり」プロジェクト
- 「世界に誇れる霞ヶ浦・北浦保全活動」プロジェクト
- 「水を育む山・水を使う人・きれいな水循環」プロジェクト
- 「一人ひとりが実践！実感！地球温暖化対策」プロジェクト

1 「環境を思いやる人づくり」プロジェクト

1.1 目的

環境保全は、環境に関する意識を向上させ、環境保全に対する正しい知識の下に、個人でできる取組や地域、学校、企業、各種団体など協働で行う取組を進めていくことが必要です。

そのために、市民・事業者が協働による環境保全活動を広めていくことで、市民や事業者の環境意識の向上と環境活動の促進を図ります。

1.2 現状と課題

- ・多くの市民は環境に関心はあるものの、環境に関する情報(環境保全に向けた具体的対策や支援内容など)の不足から、環境行動のステップアップが見込めない状況にあると考えられます。
- ・市民が積極的に参加できる環境活動として、霞ヶ浦・北浦一斉清掃大作戦や資源回収活動のほか、市民団体が主催する自然観察会などがありますが、活動の種類や参加者数を増やすためには、参加しやすいスタイルを取り入れることが必要です。

1.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・なめがたエリアテレビや市報を活用し、環境保全活動等の情報を提供します。
- ・市民が気軽に環境学習や環境保全に参加できる協働活動を提供します。
- ・環境活動に継続参加が促進される仕組みを作ります。

(2) 内容

- ・協働事業の推進(市民や事業者を取り込んだ環境保全活動※)
※里山保全や水辺保全、自然観察会など幅広い活動
- ・環境に関する環境学習や研修会・講習会等の開催
- ・行方市家庭排水浄化推進協議会と協力し、環境や地球温暖化、気候変動適応策等のさまざまな問題について普及・啓発

1.4 プロジェクトの効果

- ・市民や事業者の環境意識が向上し、環境保全に向けた取組が活発になります。
- ・協働活動に参加することで、さまざまな協働体による環境保全活動が広がります。
- ・環境学習や研修会・講習会を開催することで、環境に対する意識が高まります。

1.5 環境指標

環境指標	現況(基準) (H26年度)	現況 (R2年度)	中間目標 (R2年度)	計画目標 (R7年度)
行方市家庭排水浄化推進協議会の活動数(累積) ^{※1}	—	2件	—	3件
現況:行方市家庭排水浄化推進協議会では水質浄化キャンペーン等を実施している。 目標:霞ヶ浦・北浦の水質の現状について認識を深め、水質浄化を図り、環境に優しい地域づくりを目指します。				
環境学習・環境保全活動指導員登録数(累積)	—	0人	10人	20人
現況:環境学習・環境保全活動の指導員の登録制度がない。 目標:環境活動の種類に対応するため、分野ごとの指導員の登録数を増やす。				
環境に関する研修会・講習会の開催数	—	2件	10件	20件
現況:小・中学生を対象に、環境講演会、児童環境科学セミナーを開催している。 目標:環境保全に係る研修会や市民向けの講習会を開催する。				
環境保全に対する市民の意識の高さに対する満足度(市民アンケート)	17.8%	— ^{※2}	35%	45%
現況:市の環境の現状評価で、「満足」+「やや満足」と回答した割合。 目標:「どちらとも言えない」と回答(51.4%)した市民の1/2が「満足」+「やや満足」に移行することを目指す。				
環境について家族や友達と話し合っている割合(中学生アンケート)	14.8%	— ^{※2}	30%	40%
現況:環境保全に関する取組状況で、「している」と回答した割合。 目標:「今はしていないがこれからはしたい」と回答(21.4%)した中学生が「している」に移行することを目指す。				
地域の環境保全活動への支援・参加をしている事業者の割合(事業者アンケート)	36.8%	— ^{※2}	50%	65%
現況:環境保全に関する取組状況で、「現在実施している」と回答した割合。 目標:「今後はしてみたい」と回答(47.4%)した事業者の1/2が「現在実施している」に移行することを目指す。				

※1:R3年度の間見直しで環境指標を新たに設定した。

※2:R3年度の間見直しではアンケートを実施しなかったため「—」とした。

2 「世界に誇れる霞ヶ浦・北浦保全活動」プロジェクト

2.1 目的

行方市は、西に霞ヶ浦(西浦)、東に北浦が広がり、その湖岸延長から県内で最も両湖に面している市であり、市民の多くが水辺に恵まれた環境を誇りに思っています。

この霞ヶ浦・北浦の環境を守り後世に引き継いでいくためには、最も身近な私たち市民や事業者が、率先して霞ヶ浦・北浦の保全活動に取り組むことが必要です。

そのために、「天王崎観光交流センターコテラス」などの市民が集う場所に、若い世代や流域市町村も取り込んだ活動を提供し、世界に誇れる霞ヶ浦・北浦の保全活動の促進を図ります。

2.2 現状と課題

- ・霞ヶ浦・北浦の環境保全を望む声は多いですが、実際に保全活動を行う市民は、ほとんどが市民団体に限られています。また、若い世代の参加が少ない状況です。
- ・市内には、霞ヶ浦・北浦の保全活動の拠点がない状況です。
- ・1995年に霞ヶ浦において、第6回世界湖沼会議が開催され、そこで世界に向けて湖沼管理の指針となる霞ヶ浦宣言をPRしました。
- ・2018年に第17回世界湖沼会議「いばらき霞ヶ浦 2018」が開催され、市ではこれに合わせて環境自治体会議「第26回全国大会なめがた会議」を市内会場にて開催しました。この大会を通して、市民や来場者に対して本市の環境保全に対する取り組みを紹介し、水辺の環境保全に対する意識の高揚を図りました。
- ・本市から霞ヶ浦の魅力を発信するため、PR活動や保全活動の活性化が必要です。

2.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・活動拠点の機能の充実を図ります。
- ・若い世代や流域市町村を取り込める魅力ある活動を提供します。

(2) 内容

- ・プロジェクトのPRと事業を進めるためのワーキンググループ等の設置
- ・イベントやフォーラムの開催(環境団体や企業からの助成金等を活用)
- ・霞ヶ浦・北浦の保全活動の推進(水生植物の保全・管理、湖岸植物の保全・管理、清掃活動、湖岸周辺の公園整備、舟溜の活用など)
- ・「天王崎観光交流センターコテラス」など市民が集う場所における保全活動の情報提供(霞ヶ浦・北浦の現状、保全活動の紹介・提供など)
- ・学生(小学生、中学生、高校生、大学生)による保全活動の推進
- ・流域市町村への行方市独自の取組のPR及び参加の促進

2.4 プロジェクトの効果

- ・霞ヶ浦・北浦の保全活動の拠点を作ることで、市民の関心と理解が深まります。
- ・霞ヶ浦・北浦を世界に発信できることを強くPRすることで、市民の機運が高まり、保全活動が活発化します。
- ・水生植物や湖岸植物の保全・管理が行き届き、自然浄化の促進及び生物多様性の保全につながります。
- ・湖岸周辺の公園の整備が行き届き、また、水上レジャーが盛んになることで、憩いの場としての保全が図れます。
- ・若い世代が活動することで、市民団体の新たな力になり、さらには、活動を受け継ぐリーダーの育成にもつながります。また、活動を通して、ふるさとの魅力を再発見した若者の定住化も期待できます。
- ・流域市町村では、下流域である行方市の取組が周知され、霞ヶ浦・北浦の保全に関して意識啓発が図られます。

2.5 環境指標

環境指標	現況(基準) (H26年度)	現状 (R2年度)	中間目標 (R2年度)	計画目標 (R7年度)
霞ヶ浦・北浦の水辺保全活動実施数	6件	2件	10件	15件
現状:霞ヶ浦・北浦一斉清掃大作戦(年2回)、北浦レスキュー隊連絡会議等による活動が行われている。 目標:環境保全活動団体等による水辺保全活動(啓発活動含む)実施数の増加を目指すために関連部署との連携を図る。				
霞ヶ浦・北浦一斉清掃大作戦参加率	100%	100%	100%	100%
現状:年2回の活動に、全世帯が参加している。 目標:参加率100%の継続を目指す。				
学生(小学生・中学生・高校生・大学生)による保全活動実施数(累積)	—	—	5件	5件 ^{※1}
現状:学生(小学生・中学生・高校生・大学生)による保全活動の支援はしていない。 目標:環境保全活動を受け継ぐ世代である学生(小学生・中学生・高校生・大学生)向けの保全活動(調査や研究含む)の支援を行い、実施数の増加を目指す。				
親しめる水辺があることに対する満足度(市民アンケート)	41.8%	— ^{※2}	60%	75%
現状:地域の身近な環境の現状評価で、「満足」+「やや満足」と回答した割合。 目標:「どちらとも言えない」と回答(29.9%)した市民が「満足」+「やや満足」に移行することを旨とする。				

※1:R3年度の中間見直しで目標値の下方修正を行った。

※2:R3年度の中間見直しではアンケートを実施しなかったため「—」とした。

3 「水を育む山・水を使う人・きれいな水循環」プロジェクト

3.1 目的

行方市に住む私たちは、生活用水のほとんどを地下水源に頼っています。また、台地から集まった湧水をため池に貯留した後、農業用水として利用しています。

地下水や湧水は、降水が山林に蓄えられ、ゆっくりと地中に浸透し、長い年月をかけて育まれます。この貴重な水は、霞ヶ浦・北浦の浄化にもつながるため、水源となる里山の保全を行うとともに、生活排水対策の強化、環境に配慮した農畜水産業を推進し、きれいな水循環の促進を図ります。

3.2 現状と課題

- ・行方市の山林は民有林のため、山林の管理は所有者が行っていますが、里山としての利用がされなくなり、手入れが行き届かず荒廃しているため、間伐や下刈り、植林など里山の管理が必要です。
- ・生活排水対策は、公共下水道や農業集落排水処理区域内の接続、浄化槽の設置により行っていますが、全体の普及率は約半数の59.6%(令和元年度末)であるため、普及の促進が必要です。
- ・農地からの流出対策は、減農薬、減化学肥料等による環境保全型農業を推進しています。また、水田における農業排水対策は、循環かんがい施設の整備等により推進しています。農地については、適正な施肥量・施肥法の促進が必要です。
- ・畜産排せつ物対策として、畜舎管理の適正化、たい肥化などを推進しています。
- ・コイ養殖に係る汚濁負荷の低減対策としては、網いけすへの飼料の投与、死魚の適正処理等について規制基準が設定されているため、基準遵守の徹底が必要です。
- ・河川の水質は、有機物の指標であるBODは改善されてきていますが、アオコ発生の原因となる全窒素・全りん濃度が高いため、これらの除去対策が必要です。

3.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・市民・事業者の水利用に関する意識啓発を強化します。
- ・水の浄化対策を強化します。

(2) 内容

- ・水の利用や水循環に関する情報提供
- ・里山整備の推進
- ・生活排水処理の促進
- ・農薬及び肥料の適正使用など環境保全型農業及びエコファーマー認証登録の推進
- ・畜産業、養殖業における環境負荷対策の推進
- ・河川河口域における窒素・りん除去対策の推進(水生植物の管理など)

3.4 プロジェクトの効果

- ・水の利用や水循環などについて理解が深まり、水の浄化について意識の高揚が図られ、取組につながります。
- ・里山の整備が進み、水源涵養効果が高まります。
- ・公共下水道及び農業集落排水区域内の接続や市設置型浄化槽の設置が進み、生活排水処理の普及が進みます。
- ・環境保全型農業が進み、農地からの流出水及び農業排水の負荷低減が図られます。
- ・畜産系排水の負荷低減、養殖業における環境負荷低減が図られます。
- ・水生植物による窒素・りん除去効果の向上、アオコの抑制による景観保全が図られ、霞ヶ浦・北浦の汚濁負荷及び富栄養化の抑制が期待できます。

3.5 環境指標

環境指標	現況(基準) (H26年度)	現状 (R2年度)	中間目標 (R2年度)	計画目標 (R7年度)
里山整備面積(累積)	30.73ha	46.98ha	42ha	52ha
現状:森林環境税及び森林環境譲与税を活用し里山整備を行っている。 目標:里山整備面積の増加を目指す。				
生活排水処理普及率	54.7% (H25年度)	59.6%	60%	66%
現状:生活排水処理率が、59.6%である。 目標:公共下水道及び農業集落排水処理区域内における接続、その他の区域における市設置型浄化槽(高度処理型)の設置について普及・啓発を強化し、生活排水処理普及率の増加を目指す。				
エコファーマー認定率	68.9% (H27年度)	22.4%	75%	80%
現状:認定農業者数344人(R2年度)中、77人がエコファーマーに認定されている。 目標:毎年約1%の増加を目指す。				
河川水質環境基準達成率 (5河川のBOD)	100%	100%	100%	100%
現状:市内の河川の環境基準点5河川において基準を達成しているが、年によっては基準未達成の河川がある。 目標:数値に変動があるため、環境基準達成の継続を目指す。				
水のきれいさに対する満足度(市民アンケート)	25.2%	—※	40%	50%
現状:市の環境の現状評価で「満足」+「やや満足」と回答した割合を対象。 目標:「どちらとも言えない」と回答(24.4%)した市民が「満足」+「やや満足」に移行することを目指す。				

※:R3年度の中間見直しではアンケートを実施しなかったため「—」とした。

4 「一人ひとりが実践！実感！地球温暖化対策」プロジェクト

4.1 目的

地球温暖化による気候変動の影響は、ここ数年の猛暑や集中豪雨、土砂災害などから実感せざるを得ない時代になってきました。今後、気候変動の影響を抑えるためには、地球温暖化の原因である温室効果ガス排出量の大幅な削減が最も重要です。

地球温暖化対策(緩和策)や気候変動適応策は、個人の取り組みが大きな効果につながっていくため、一人ひとりが取組の効果を実感できるよう、各種支援体制を強化し、今できることを着実に実践する地球温暖化対策(緩和策)や気候変動適応策を進めます。

4.2 現状と課題

- ・行方市在中の茨城県地球温暖化防止活動推進員の数が少ないため、今後普及啓発し人数を増やすことが必要です。
- ・行方市の茨城県地球温暖化防止活動推進員が、地球温暖化に関する学習会の開催等、普及啓発活動を行っています。
- ・国が掲げる温室効果ガス排出量の削減目標の達成に向けて、家庭からのCO₂排出量や削減量の把握を強化するため、CO₂の見える化を活用した取組が必要です。
- ・本市の自家用乗用車保有台数は90%と高いですが、意識調査ではエコドライブをしていると回答した市民が少ないため、エコドライブ及びエコカー導入の推進が必要です。
- ・地産地消について、安全・安心に加え、食料の輸送に伴うCO₂排出量削減の観点の普及・啓発が必要です。
- ・市では、フードロス削減を目的とした「手前どりキャンペーン」を推進し、行方市社会福祉協議会では、「地域と家庭で取組む福祉活動」として「ひとり一品運動」を推進しています。今後も、家庭で消費されるフードロス削減の普及・啓発が必要です。
- ・市では、夏の省エネ対策として緑のカーテン設置を推進しています。今後も、緑のカーテン設置や打ち水など、自然の力を利用した省エネ対策の推進が必要です。
- ・市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量(11,807t-CO₂)のうち、一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出量が全体の約5割を占めていることから、一般廃棄物の排出量の削減が必要です。
- ・森林による二酸化炭素の吸収機能を助けるために、荒廃した里山を整備し、二酸化炭素の吸収率の高い若い樹木を育てることが大切です。

4.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・地球温暖化対策の推進に向けた人づくり・環境づくりを進めます。
- ・CO₂削減につながる暮らし方や事業活動を広めます。

(2) 内容

- ・茨城県地球温暖化防止活動推進員の増員及び市との連携による地球温暖化対策の普及啓発活動
- ・家庭から排出しているCO₂の見える化活用の推進(CO₂チェックツール、環境ラベル等の活用)
- ・節電やエコドライブ、エコカー導入、地産地消、フードロス削減、自然の力を利用した省エネ対策など地球温暖化対策全般の推進
- ・ごみの排出抑制と減量化の推進
- ・二酸化炭素の吸収源となる緑の保全活動の推進
- ・公共交通機関等の利用を促進

4.4 プロジェクトの効果

- ・茨城県地球温暖化防止活動推進員が増員されることで、市との連携による環境保全に係る普及啓発活動が、より活発になります。
- ・CO₂の見える化が活用され、CO₂排出量削減に向けた効果的な取組につながります。
- ・エコドライブやエコカー導入、地産地消、フードロス削減、自然の力を利用した省エネ対策など、地球温暖化対策全般について、普及啓発が図られます。
- ・高速バス、路線バス、広域路線バス、市営路線バス及びデマンド型コミュニティバス(乗合タクシー)等の既存公共交通機関の利用促進が図られます。
- ・ごみの減量化が進み、一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量の削減が図られます。
- ・二酸化炭素の吸収源となる緑の保全が図られます。

コラム

～地域と家庭で取り組む福祉活動～

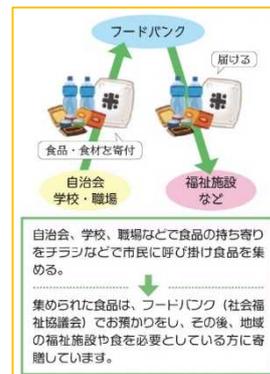
「ひとり一品運動」の開催

行方市社会福祉協議会では、「ひとり一品運動」の開催を推進しています。

「ひとり一品運動」とは、家庭で余っている食べ物を自治会・学校・職場などに持ち寄り、それらをまとめてフードバンクに寄付する活動です。

【出典：社協だより あおぞらNo.59 P4より】

ひとり一品運動の開催と食品の流れ



4.5 環境指標

環境指標	現況(基準) (H26年度)	現状 (R2年度)	中間目標 (R2年度)	計画目標 (R7年度)
CO ₂ の見える化活用件数(累積)	—	0件	50件	50件 ^{※1}
<p>現状:現在市では実施していない。</p> <p>目標:CO₂チェックツール(うちエコ診断、環境家計簿等)を提供し、うちエコ診断の受診家庭を増やし、家庭におけるCO₂排出量や削減量の見える化(数値把握)の活用件数を増やす。</p>				
ごみの排出量(一般廃棄物)	11,000t	10,628t	10,000t	9,000t
<p>現状:市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量のうち、一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出量が全体の約5割を占めている。</p> <p>目標:一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出量を削減するため、行方市一般廃棄物処理基本計画(市ごみ処理基本計画)に掲げるごみの削減目標値の達成を目指す。</p>				
グリーンカーテン設置のための苗の配布件数	76件	57件	500件	100件 ^{※1}
<p>現状:環境保全行方市民会議が実施するグリーンカーテン事業においてツル性植物の苗を提供している。</p> <p>目標:苗の提供を継続し、グリーンカーテンの啓発・普及を目指す。</p>				
市営路線バス利用者数 ^{※2}	—	5,442人 ^{※3} (R元年度)	—	6,576人 ^{※3}
<p>現状:令和3年3月に策定された行方市地域公共交通計画では公共交通機関の利用促進に努めている。</p> <p>目標:公共交通の利用を促進し、利用者を増やす。</p>				
エコドライブをしている市民の割合(市民アンケート)	31.5%	— ^{※4}	60%	80%
<p>現状:環境保全に関する取組状況で、「いつも行っている」と回答した割合。</p> <p>目標:「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答(45.1%)した市民が「いつも行っている」に移行することを目指す。</p>				
暮らしの中で節電を心がけている市民の割合(市民アンケート)	60.4%	— ^{※4}	80%	85% ^{※1}
<p>現状:環境保全に関する取組状況で、「いつも行っている」と回答した割合。</p> <p>目標:「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答(33.3%)した市民が「いつも行っている」に移行することを目指す。</p>				

※1:R3年度の間見直しで目標値の下方修正を行った。

※2:R3年度の間見直しで環境指標を新たに設定した。

※3:行方市地域公共交通計画P97より引用。

※4:R3年度の間見直しではアンケートを実施しなかったため「—」とした。